

みずほCustomer Desk Report 2020/02/20号(As of 2020/02/19)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	109.92
TKY 9:00AM	109.92	1.0795	118.67	1.2999	0.6695
SYD-NY High	111.60	1.0812	120.49	1.3023	0.6707
SYD-NY Low	109.85	1.0782	118.60	1.2908	0.6666
NY 5:00 PM	111.35	1.0808	120.33	1.2922	0.6678
NY DOW	29,348.03	170.77	日本2年債	-0.160	▲1.00bp
NASDAQ	9,817.18	84.44	日本10年債	-0.050	1.00bp
S&P	3,386.15	22.20	米国2年債	1.4250	1.24bp
日経平均	23,400.70	206.90	米国5年債	1.4086	1.31bp
TOPIX	1,671.86	6.15	米国10年債	1.5670	0.85bp
シコ日経先物	23,585.00	385.00	独10年債	-0.4215	▲1.40bp
ロンドンFT	7,457.02	75.01	英10年債	0.5980	▲1.10bp
DAX	13,789.00	107.81	豪10年債	1.0340	0.40bp
ハンセン指数	27,655.81	125.61	USDJPY 1M Vol	5.36	0.83%
上海総合	2,975.40	▲9.57	USDJPY 3M Vol	5.23	0.36%
NY金	1,611.80	8.20	USDJPY 6M Vol	5.51	0.22%
WTI	53.29	1.24	USDJPY 1M 25RR	-0.55	Yen Call Over
CRB指数	175.50	1.69	EURJPY 3M Vol	6.01	0.16%
ドルインデックス	99.61	0.17	EURJPY 6M Vol	6.23	0.12%

東京	東京時間のドル円は109.92レベルでオープン。中国株が小幅安に始まり、ドル円も109.90を挟んで推移をしていたが、中国で企業支援策が打ち出されたこと等を背景に中国株がじりじりと上昇すると、ドル円も上値を切り上げた。午後は110円台をしつかりと推移し、そのまま110.05レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、110.05レベルでオープン。欧州株が堅調に推移するなか、安全資産とされる日本円は売られ、ドル円は110.53まで上昇。110.49レベルでNYに渡った。ポンドは、1.2990レベルでオープン。1月度消費者物価指数前年比が+1.8%と、市場予想値である+1.6%を上回ると1.3023まで買われたが、すぐ反落。結局1.2992レベルでNYに渡った。(ロンドン・オールフリー 00531 444 179 マクルヒル)
ニューヨーク	海外市場のドル円は109円台後半でスタートするが、コロナウイルス感染者数の増加ペースの鈍化や中国で企業支援策が打ち出されるとの見方に円売りが先行し110円台を回復。欧州株も堅調に推移する中、110.53をまで上昇を続け、110.49レベルでNYオープン。朝方は1月の米住宅着工件数、米建設許可件数、米PPIが予想を上回ったことから、ドル買いで反応し110.80まで上昇する。その後、小幅反落するも、米株がプラス圏で底堅く推移する中、ドル買い円売りの流れは止まらず、2019年5月以来、約9か月ぶりの111円台乗せとなる。午後は1月FOMCの議事録が公表され、「コロナウイルス、見通しを巡る不確定要素の一つである」、「現政策のスタンスは当面適切である」等と伝わり、特段新しい材料が見当たらず、ドル円の反応は限定的だった。しかし、じり高推移はその後も続き、一時111.60をタッチ。終盤にかけて買いが一服し、111.23まで反落。結局、111.35レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは1.0800近辺での振幅が続いた。ユーロ円の上昇にサポートされ、1.0808まで上昇する場面もあったが、欧州景気後退への懸念が燃る中で上値は重く、1.0784まで反落し、1.0801レベルでNYオープン。朝方発表の米経済指標が好調な結果だったことから、ドル買いに圧迫され1.0782まで下落する。しかし、ユーロ円の上昇にサポートされ、午後は1.0812まで反発し、結局、1.0808レベルでクローズ。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 高根・大庭 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

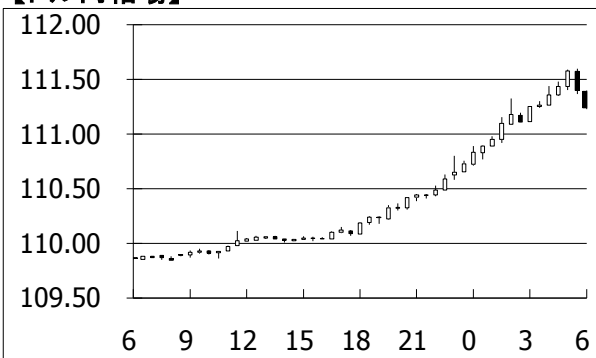
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
2月19日	18:30	英 CPI(前月比/前年比)	1月 -0.3%/1.8%	-0.4%/1.6%
	22:30	米 住宅着工件数/建設許可件数	1月 1567k/1551k	1428k/1450k
	22:30	米 PPI最終需要(前月比/前年比)	2月 0.5%/2.1%	0.1%/1.6%
2月20日	4:00	米 FOMC議事録	現行の金融政策は当面適切と認識	

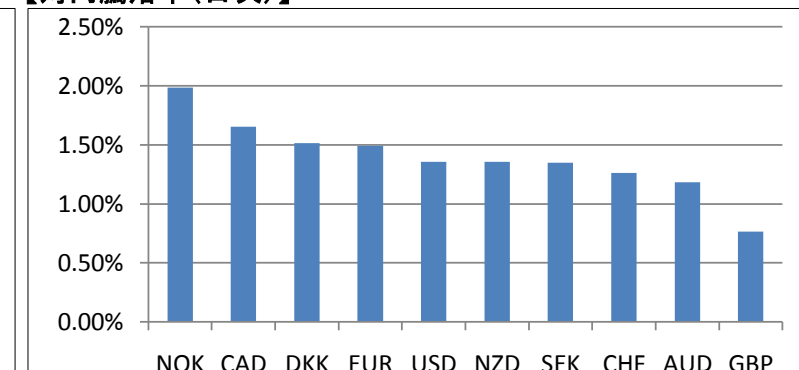
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
2月20日	16:00	独 GfK消費者信頼感	3月 9.8	9.9
	16:00	独 PPI(前月比/前年比)	1月 0.1%/-0.4%	0.1%/-0.2%
	18:30	英 小売売上高(除く自動車燃料・前月比/前年比)	1月 0.8%/0.5%	-0.8%/0.7%
	22:30	米 フィラデルフィア連銀景況指数	2月 11.0	17.0
2月21日	0:00	米 先行指数	1月 0.4%	-0.3%
	0:00	欧 消費者信頼感	2月 -8.2	-8.1

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 タイバーツ相場の今後

タイバーツは1月中旬以降約2.5%超のタイバーツ安が進んだ。この原因の一つは新型コロナウイルスの影響であることは明白で、韓国ウォンや台湾ドル等も影響を受けてはいるが、タイバーツは中でも新型コロナウイルスの影響を大きく受けた通貨といえる。タイ中銀は今日5日に金融政策委員会(MPC)を開催し、政策金利を25bsp引下げ、1.00%とすることを決定し、昨年の2回の利下げと合わせ政策金利は過去最低水準を更新することとなった。この原因は、新型コロナウイルスの感染拡大懸念や今年度の予算成立の遅れ、国内での干ばつによる経済の停滞懸念によるとの声明が出ており、実際にタイのCPIは1月コアCPIが前年対比+0.47%と低調かつ外需についても未だ回復してはいないことが背景にあるものと考えられる。

今後のタイバーツ相場については、短期的にはタイバーツ安が進む可能性があるものの、中長期的にはタイバーツ買いの地合に戻っていくものと考えられる。2019年のタイバーツ相場は米中貿易摩擦問題の報道で市場がリスクオフムードになった場合でもバーツが買い進められる場面が見られたが、これはタイの経常黒字が強く、海外投資家による証券投資フローがリスクオフにおいて引き上げられても大きく影響しないことが要因の一つだと考えられる。今回、新型コロナウイルスの報道が見られてからは、中国人観光客が多いタイへの感染懸念が強く意識されたことでバーツ安が進行した。タイ政府は観光業者に対して減税等の支援策を打ち出しているものの、今後検疫強化を理由に旅行者が伸び悩むようであれば、GDPの約2割弱を賄う観光業の更なる減速は避けられないだろう。一方、中国本土でも新型コロナウイルスの感染者増加数の伸びは鈍化してきていることから、企業業績への懸念等の不透明感に残るものの、これが継続すればタイバーツは再び売られにくい地合に戻っていくものと考えられる。(高根)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ブル	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ブル	ベア	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ベア	ベア	ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル

ブル	ベア
11	9